

4.2 ガイドンスの概要一覧表

4.2.1 降水ガイドンス

平均降水量ガイドンス (MRR) ¹	
作成対象	GSM : 20 km 格子 MSM, MEPS : 5 km 格子
作成方法	カルマンフィルタによる予測降水量を頻度バイアス補正後、降水確率 (PoP) で補正。
作成対象とするモデル	GSM, MSM, MEPS (MEPS は各メンバー)
予報対象時間単位	3 時間
予報期間と間隔	GSM : FT=6 から FT=84 まで 3 時間間隔 MSM : FT=3 から FT=39 (00, 12UTC 初期値は 51) まで 3 時間間隔 MEPS : FT=3 から FT=39 まで 3 時間間隔
逐次学習の有無	あり
説明変数	モデル予測値 (NW85, NE85, SSI, PCWV, QWX, EHQ, OGES, DXQV, FRR) ²
目的変数	解析雨量 (1 km 格子) とアメダスの降水量から算出した 20 km (MSM, MEPS は 5 km) 格子内の平均降水量。
層別化処理の対象	格子毎、初期時刻、予報時間 (6 時間区切り)
備考	・ 頻度バイアス補正の閾値に 0.5, 1, 5, 10, 20, 30, 50, 80, 120 mm/3h を使用する (GSM の 11~4 月は 1, 3, 50, 80 mm/3h を使用する)。

¹ 詳細は数値予報課報告・別冊第 64 号第 4.2 節を参照のこと。

² 降水ガイドンスに使用する説明変数は以下のもの。

NW85 : 850 hPa の北西成分の風速

NE85 : 850 hPa の北東成分の風速

SSI : ショワルターの安定指数 (850 - 500 hPa)

PCWV : 可降水量 × 850 hPa 風速 × 850 hPa 鉛直速度

QWX : \sum (鉛直速度 × 比湿 × 湿度 × 層の厚さ)、 \sum は各層の和を示す (以下同じ)

EHQ : \sum (基準湿度からの超過分 × 比湿 × 湿潤層の厚さ)、湿潤層は基準湿度 (気温で変化) を超える層 (以下同じ)

OGES : 地形性上昇流 × 比湿 × 湿潤層の厚さ

DXQV : 冬型降水の指数 「風向別降水率 × 850 hPa の風速 × (海面と下層温位の飽和比湿差)」

FRR : モデル降水量予測値

RH85 : 850 hPa 相対湿度

NW50 : 500 hPa の北西成分の風速

NE50 : 500 hPa の北東成分の風速

ESHS : \sum (比湿 × 湿潤層の厚さ) / \sum 飽和比湿

HOGR : 地形性上昇流 × 相対湿度

CFRR : モデル降水量予測値の変換値 「 $FRR^2 / (FRR^2 + 2)$ 」

D850 : 850 hPa 風向

W850 : 850 hPa 風速

OGR : 地形性上昇流 × 比湿

10Q4 : 1000 hPa の比湿と 400 hPa の飽和比湿の差

DWL : 湿潤層の厚さ

降水確率ガイダンス (PoP) ¹	
作成対象	GSM : 20 km 格子 MSM : 5 km 格子
作成方法	カルマンフィルタ
作成対象とするモデル	GSM, MSM
予報対象時間単位	6 時間
予報期間と間隔	GSM : FT=9 から FT=81 まで 6 時間間隔 MSM : 00, 12UTC 初期値 : FT=9 から FT=51 まで 6 時間間隔 03, 15UTC 初期値 : FT=6 から FT=36 まで 6 時間間隔 06, 18UTC 初期値 : FT=9 から FT=39 まで 6 時間間隔 09, 21UTC 初期値 : FT=6 から FT=36 まで 6 時間間隔
逐次学習の有無	あり
説明変数	モデル予測値 (NW85, NE85, RH85, NW50, NE50, ESHS, HOG, DXQV, CFRR) ²
目的変数	解析雨量 (1 km 格子) とアメダスの降水量から算出した 20 km (MSM は 5 km) 格子内の降水の有無の平均 (実況降水面積率に同じ)。
層別化処理の対象	格子毎、初期時刻、予報時間 (6 時間区切り)

最大降水量ガイダンス (RMAX) ¹	
作成対象	GSM : 20 km 格子 MSM, MEPS : 5 km 格子
作成方法	1, 3 時間最大降水量 : ニューラルネットワーク (3 層 : 中間層はロジスティック関数 ³ 、出力層は線形関数を使用) 24 時間最大降水量 : 線形重回帰
作成対象とするモデル	GSM, MSM, MEPS (MEPS は各メンバー)
予報対象時間単位	1, 3 時間最大降水量 : 3 時間 24 時間最大降水量 : 24 時間
予報期間と間隔	GSM : 1, 3 時間最大降水量 : FT=6 から FT=84 まで 3 時間間隔 24 時間最大降水量 : FT=27 から FT=84 まで 3 時間間隔 MSM : 1, 3 時間最大降水量 : FT=3 から FT=39 (00, 12UTC 初期値は 51) まで 3 時間間隔 24 時間最大降水量 : FT=24 から FT=39 (00, 12UTC 初期値は 51) まで 3 時間間隔 MEPS : 1, 3 時間最大降水量 : FT=3 から FT=39 まで 3 時間間隔 24 時間最大降水量 : FT=24 から FT=39 まで 3 時間間隔
逐次学習の有無	なし
説明変数	・ 1, 3 時間最大降水量 : モデル予測値 (D850, W850, SSI, OGR, 10Q4, DWL) ² と 3 時間平均降水量 ・ 24 時間最大降水量 : モデル予測値 (500 hPa 高度、500 hPa 温位、850 hPa 鉛直 P 速度、850 hPa 相当温位、(SSI) ² 、SSI(925 - 700 hPa)、500 hPa 渦度、500 m 高度水蒸気フラックス、500 m 高度相当温位、500 m 高度と 700 hPa の風速鉛直シア、地形性上昇流 (下層代表風と風向に応じた地形勾配の積) と下層比湿の積、可降水量、(EHQ, ESHS) ² 、等温位面渦位 (305, 345, 355 K) の上位主成分から 7 つ) 及び各予報対象時間単位の平均降水量ガイダンス
目的変数	解析雨量 (1 km 格子) から算出した 20 km (MSM, MEPS は 5 km) 格子内の降水量の最大値。ただし、MSM, MEPS の 1, 3 時間最大降水量は、5 km 格子を中心とする 20 km 格子内の最大を目的変数としている。
層別化処理の対象	格子毎、平均降水量
備考	・ 1, 3 時間最大降水量は、ニューラルネットで比率 (最大降水量 / 平均降水量) を予測し、平均降水量ガイダンス (MRR) に比率を掛けて最大降水量を予測する。 ・ 24 時間最大降水量は、各予報対象時間単位の平均降水量ガイダンス及びモデル予測値の主成分から線形重回帰式により最大降水量を予測する。

³ 入力を x とした時に、出力が $1/(1 + \exp(-wx))$ の形で表される関数 (w は係数)。

4.2.2 降雪ガイダンス

降雪量ガイダンス ⁴	
作成対象	5 km 格子
作成方法	平均降水量ガイダンスに雪水比をかけて算出する。雪水比は、ロジスティック関数による非線形回帰で決定した回帰式 ⁵ に、格子形式気温ガイダンスを入力して予測する。 1時間毎の降雪量（1時間に線形内挿した3時間平均降水量ガイダンス×1時間雪水比）を計算し、それを積算して3, 6, 12, 24時間降雪量を算出。
作成対象とするモデル	GSM, MSM, MEPS（MEPSは各メンバー）
予報対象時間単位	3, 6, 12, 24時間
予報期間と間隔	GSM：3時間：FT=6からFT=84まで3時間間隔 6時間：FT=9からFT=84まで3時間間隔 12時間：FT=15からFT=84まで3時間間隔 24時間：FT=27からFT=84まで3時間間隔 MSM：3時間：FT=3からFT=39（00, 12UTC初期値は51）まで3時間間隔 6時間：FT=6からFT=39（00, 12UTC初期値は51）まで3時間間隔 12時間：FT=12からFT=39（00, 12UTC初期値は51）まで3時間間隔 24時間：FT=24からFT=39（00, 12UTC初期値は51）まで3時間間隔 MEPS：3時間：FT=3からFT=39まで3時間間隔 6時間：FT=6からFT=39まで3時間間隔 12時間：FT=12からFT=39まで3時間間隔 24時間：FT=24からFT=39まで3時間間隔
逐次学習の有無	なし（入力としている平均降水量ガイダンスはあり）
説明変数	平均降水量：4.2.1 降水ガイダンス参照 雪水比：格子形式気温ガイダンス
層別化処理の対象	雪水比：降水量
備考	・雪水比は格子形式気温ガイダンス（4.2.3の備考欄を参照）を回帰式に入力して予測する。 ・1時間毎の降雪量（3時間平均降水量ガイダンスを3等分×1時間雪水比）を計算し、それを積算して3, 6, 12, 24時間降雪量を算出。 ・天気ガイダンス（降水種別）（4.2.5参照）が「雨」の場合または、格子形式気温ガイダンスの地上気温が2°C以上の場合には降雪量を0 cmとする。

⁴ 詳細は数値予報課報告・別冊第64号第4.3節を参照のこと。

⁵ 雪水比のような上下限値を持つ連続な目的変数に用いられる回帰分析。ロジスティック関数を用いて、最小二乗法で回帰係数を求める。

4.2.3 気温ガイダンス

時系列気温ガイダンス ⁶	
作成対象	アメダス
作成方法	カルマンフィルタ
作成対象とするモデル	GSM, MSM, MEPS (MEPSは各メンバー)
予報対象時間	毎正時
予報期間と間隔	GSM : FT=3 から FT=84 まで 1 時間間隔 MSM : FT=1 から FT=39 (00, 12UTC 初期値は 51) まで 1 時間間隔 MEPS : FT=1 から FT=39 まで 1 時間間隔
逐次学習の有無	あり
説明変数	モデル予測値 (地上の西・東・南・北風成分、地上風速、地上気温、中・下層雲量、気温減率、降水量、前日との気温差)
目的変数	アメダスで観測された毎正時の気温
層別化処理の対象	作成対象地点、初期時刻、予報時間、季節 (暖候期 (4~9 月)、寒候期 (10~3 月)) 暖・寒候期の係数切替前に 1 か月間の事前学習を行う。
備考	時系列気温ガイダンスを格子に分配して格子形式気温ガイダンスが作成され、降雪量ガイダンス (雪水比)、天気ガイダンス (降水種別) に利用される。

⁶ 詳細は数値予報課報告・別冊第 64 号第 4.4 節を参照のこと。

最高・最低気温ガイダンス ⁶																																																																																		
作成対象	アメダス																																																																																	
作成方法	カルマンフィルタ																																																																																	
作成対象とするモデル	GSM, MSM, MEPS (MEPS は各メンバー)																																																																																	
予報対象時間単位	9 時間 (最低気温 15~00UTC、最高気温 00~09UTC) 24 時間 (週間予報用の明後日の最高・最低気温)																																																																																	
予報期間 (対象要素)	<p>GSM :</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>初期値</th> <th>当日</th> <th>翌日</th> <th>翌々日</th> <th>3 日後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>00UTC</td> <td>最高</td> <td>最高・最低</td> <td>最高・最低</td> <td>最低</td> </tr> <tr> <td>06UTC</td> <td></td> <td>最高・最低</td> <td>最高・最低</td> <td>最高・最低</td> </tr> <tr> <td>12UTC</td> <td></td> <td>最高・最低</td> <td>最高・最低</td> <td>最高・最低</td> </tr> <tr> <td>18UTC</td> <td>最高</td> <td>最高・最低</td> <td>最高・最低</td> <td>最低</td> </tr> </tbody> </table> <p>MSM :</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>初期値</th> <th>当日</th> <th>翌日</th> <th>翌々日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>00UTC</td> <td>最高</td> <td>最高・最低</td> <td>最低</td> </tr> <tr> <td>03UTC</td> <td></td> <td>最高・最低</td> <td></td> </tr> <tr> <td>06UTC</td> <td></td> <td>最高・最低</td> <td></td> </tr> <tr> <td>09UTC</td> <td></td> <td>最高・最低</td> <td>最低</td> </tr> <tr> <td>12UTC</td> <td></td> <td>最高・最低</td> <td>最高・最低</td> </tr> <tr> <td>15UTC</td> <td>最高・最低</td> <td>最高・最低</td> <td></td> </tr> <tr> <td>18UTC</td> <td>最高</td> <td>最高・最低</td> <td></td> </tr> <tr> <td>21UTC</td> <td>最高</td> <td>最高・最低</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>MEPS :</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>初期値</th> <th>当日</th> <th>翌日</th> <th>翌々日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>00UTC</td> <td>最高</td> <td>最高・最低</td> <td></td> </tr> <tr> <td>06UTC</td> <td></td> <td>最高・最低</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12UTC</td> <td></td> <td>最高・最低</td> <td>最低</td> </tr> <tr> <td>18UTC</td> <td>最高</td> <td>最高・最低</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「翌日」等は、日本時間で初期時刻から見た日付を示す。</p>	初期値	当日	翌日	翌々日	3 日後	00UTC	最高	最高・最低	最高・最低	最低	06UTC		最高・最低	最高・最低	最高・最低	12UTC		最高・最低	最高・最低	最高・最低	18UTC	最高	最高・最低	最高・最低	最低	初期値	当日	翌日	翌々日	00UTC	最高	最高・最低	最低	03UTC		最高・最低		06UTC		最高・最低		09UTC		最高・最低	最低	12UTC		最高・最低	最高・最低	15UTC	最高・最低	最高・最低		18UTC	最高	最高・最低		21UTC	最高	最高・最低		初期値	当日	翌日	翌々日	00UTC	最高	最高・最低		06UTC		最高・最低		12UTC		最高・最低	最低	18UTC	最高	最高・最低	
初期値	当日	翌日	翌々日	3 日後																																																																														
00UTC	最高	最高・最低	最高・最低	最低																																																																														
06UTC		最高・最低	最高・最低	最高・最低																																																																														
12UTC		最高・最低	最高・最低	最高・最低																																																																														
18UTC	最高	最高・最低	最高・最低	最低																																																																														
初期値	当日	翌日	翌々日																																																																															
00UTC	最高	最高・最低	最低																																																																															
03UTC		最高・最低																																																																																
06UTC		最高・最低																																																																																
09UTC		最高・最低	最低																																																																															
12UTC		最高・最低	最高・最低																																																																															
15UTC	最高・最低	最高・最低																																																																																
18UTC	最高	最高・最低																																																																																
21UTC	最高	最高・最低																																																																																
初期値	当日	翌日	翌々日																																																																															
00UTC	最高	最高・最低																																																																																
06UTC		最高・最低																																																																																
12UTC		最高・最低	最低																																																																															
18UTC	最高	最高・最低																																																																																
逐次学習の有無	あり																																																																																	
説明変数	モデル予測値 (地上の西・東・南・北風成分、地上風速、地上気温、中・下層雲量、気温減率、降水量、前日との気温差)																																																																																	
目的変数	アメダスの気温観測 (1 分値) から算出した最高・最低気温 当日・翌日の、最高気温は 00~09UTC の最高気温、最低気温は 15~00UTC の最低気温。																																																																																	
層別化処理の対象	作成対象地点、初期時刻、季節 (暖候期 (4~9 月)、寒候期 (10~3 月))、予報対象要素 (最高気温、最低気温)、予報時間 (日単位) 暖・寒候期の係数切替前に 1 か月間の事前学習を行う。																																																																																	

4.2.4 風ガイダンス

定時風ガイダンス ⁷	
作成対象	アメダス
作成方法	カルマンフィルタによる予測に風速の頻度バイアス補正を行う。
作成対象とするモデル	GSM, MSM, MEPS (MEPS は各メンバー)
予報対象時間	3時間毎の正時 (GSM)、毎正時 (MSM, MEPS)
予報期間と間隔	GSM : FT=3 から FT=84 まで 3 時間間隔 MSM : FT=1 から FT=39 (00, 12UTC 初期値は 51) まで 1 時間間隔 MEPS : FT=1 から FT=39 まで 1 時間間隔
逐次学習の有無	あり
説明変数	モデル予測値 (地上風の東西・南北成分)
目的変数	実況とモデルの地上風の東西・南北成分との差 アメダスで観測された 1, 3 時間毎の正時の風の東西・南北成分
層別化処理の対象	作成対象地点、初期時刻、予報対象時刻 (1 時間毎 1 日分)、 風向 (4 方位 : 北東、南東、南西、北西)
備考	頻度バイアス補正の閾値はアメダスには 2.5, 5.5, 9.5, 13.0 m/s を使用。

最大風速ガイダンス ⁷	
作成対象	アメダス
作成方法	カルマンフィルタによる予測に風速の頻度バイアス補正を行う。
作成対象とするモデル	GSM, MSM, MEPS (MEPS は各メンバー)
予報対象時間単位	3 時間
予報期間と間隔	GSM : FT=3 から FT=84 まで 3 時間間隔 MSM : FT=3 から FT=39 (00, 12UTC 初期値は 51) まで 3 時間間隔 MEPS : FT=3 から FT=39 まで 3 時間間隔
逐次学習の有無	あり
説明変数	モデル予測値 (地上風の東西・南北成分)
目的変数	実況とモデルの地上風の東西・南北成分との差 前 3 時間の最大風速時 (10 分毎の観測から算出) の風の東西・南北成分
層別化処理の対象	作成対象地点、初期時刻、予報対象時刻 (1 時間毎 1 日分)、 風向 (4 方位 : 北東、南東、南西、北西)
備考	頻度バイアス補正の閾値はアメダスには 3.0, 7.0, 11.0, 15.0 m/s を使用。

⁷ 詳細は数値予報課報告・別冊第 64 号第 4.5 節を参照のこと。

4.2.5 天気ガイダンス

天気ガイダンス ⁸	
作成対象	20 km 格子 (GSM) 、5 km 格子 (MSM)
作成方法	日照率、降水量、降水種別から天気を判別。 天気を晴れ、曇り、雨、雨または雪、雪に判別。
作成対象とするモデル	GSM, MSM
予報対象時間単位	前 3 時間
予報期間と間隔	GSM: FT=6~84 の 3 時間間隔、MSM: FT=3~39 (00, 12UTC 初期値は 51) の 3 時間間隔

⁸ 詳細は数値予報課報告・別冊第 64 号第 4.6 節を参照のこと。

4.2.6 発雷確率ガイダンス

発雷確率ガイダンス ⁹	
作成対象	GSM : 20 km 格子、MSM, MEPS (MEPS は各メンバー) : 5 km 格子
作成方法	ロジスティック回帰
予報対象時間単位	3 時間
予報期間と間隔	GSM: FT=6~84 の 3 時間間隔、 MSM: FT=3~39 (00, 12UTC 初期値は 51) の 3 時間間隔 MEPS: FT=3~39 の 3 時間間隔
逐次学習の有無	なし
説明変数	下表に発雷確率ガイダンスの説明変数をまとめる。
目的変数	対象とする 20 km 格子を含む周囲 9 格子 (60 km 四方) における前 3 時間の発雷の有無。 LIDEN、飛行場観測、地上気象観測から作成する。
層別化処理の対象	地域、-10 °C 高度、予報時間、予報対象時刻。
備考	予測は LAF (過去初期値との重み付き平均) ありと LAF なしを作成する。

発雷確率ガイダンスの説明変数		
必須変数	FRR3	数値予報モデルの 3 時間降水量予測 [mm/3h]。 $\log_{10}(1 + \text{FRR3})$ と変換する。
	CAPE	対流有効位置エネルギー [J kg^{-1}]。モデル地上面及び 925 hPa 面から持ち上げた CAPE のうち大きい方を選択。 $\text{CAPE} \times 1/1000$ と変換する。
	SSI	シヨワルター安定指数。-10 °C 高度が 3 km 未満の場合には 925 hPa と 700 hPa の間で計算した SSI9 を用いる。
候補変数	ZM10	-10 °C 高度 [km](大気の温度が -10 °C となる高度)。
	LLU	地上から 700 hPa の間の平均風の東西成分 [m/s]。-10 °C 高度が 3 km 以上のときは最大 15 m/s に制限する。
	LLV	地上から 700 hPa の間の平均風の南北成分 [m/s]。-10 °C 高度が 3 km 以上のときは最大 15 m/s に制限する。
	TPWR	気柱相対湿度。鉛直方向に飽和していると仮定した飽和可降水量に対する可降水量の比率。
	VOR5	500 hPa 渦度 [10^{-6}s^{-1}]。最大 $99 \times 10^{-6}\text{s}^{-1}$ に制限する。
	LAPS	地上から 850 hPa の間の気温減率 [$^{\circ}\text{C km}^{-1}$]。
	DXQV	冬型の降水指数。風向別降水率 \times 850 hPa の風速 [m/s] \times 海面と下層温位の飽和比湿差 [g kg^{-1}]。詳細は降水ガイダンス (4.2.1) を参照。
VSHR	850 hPa と 500 hPa の間の風ベクトル差の大きさ [m/s]	

⁹ 詳細は数値予報課報告・別冊第 64 号第 4.7 節を参照のこと。

4.2.7 湿度ガイダンス

最小湿度ガイダンス ¹⁰																																																																					
作成対象	気象官署（特別地域気象観測所含む）																																																																				
作成方法	ニューラルネットワーク																																																																				
作成対象とするモデル	GSM, MSM																																																																				
予報対象時間単位	24 時間 (15~15UTC)																																																																				
初期時刻と予報対象日	<p>使用する数値予報モデルと予報対象日は以下のとおり。「翌日」等は、日本時間で初期時刻から見た日付を示す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>モデル</th> <th>初期時刻</th> <th>当日</th> <th>翌日</th> <th>2 日後</th> <th>3 日後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">GSM</td> <td>00UTC</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>06UTC</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>12UTC</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>18UTC</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="8">MSM</td> <td>00UTC</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>03UTC</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>06UTC</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>09UTC</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12UTC</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15UTC</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18UTC</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>21UTC</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	モデル	初期時刻	当日	翌日	2 日後	3 日後	GSM	00UTC		○	○		06UTC		○	○	○	12UTC		○	○	○	18UTC		○	○		MSM	00UTC		○			03UTC		○			06UTC		○			09UTC		○			12UTC		○	○		15UTC	○				18UTC					21UTC			○	
モデル	初期時刻	当日	翌日	2 日後	3 日後																																																																
GSM	00UTC		○	○																																																																	
	06UTC		○	○	○																																																																
	12UTC		○	○	○																																																																
	18UTC		○	○																																																																	
MSM	00UTC		○																																																																		
	03UTC		○																																																																		
	06UTC		○																																																																		
	09UTC		○																																																																		
	12UTC		○	○																																																																	
	15UTC	○																																																																			
	18UTC																																																																				
	21UTC			○																																																																	
逐次学習の有無	あり																																																																				
説明変数	予報対象日における、 03, 12, 21JST の地上気温、03, 12, 21JST の 850 hPa 風速、 03, 12, 21JST の 3 層 (1000, 925, 800 hPa) 平均相対湿度、 03, 12, 21JST の 1000-700 hPa 間気温減率、地上最高気温、 地上と 925 hPa の日最高気温出現時の比湿、地上最小比湿、地上最小湿度、 各層（地上、1000, 925, 850, 700, 500 hPa）の日平均相対湿度																																																																				
目的変数	観測された日最小湿度（1 分値から算出）																																																																				
層別化処理の対象	作成対象地点、夏期（4 月～9 月）、冬期（10 月～3 月）。																																																																				

¹⁰ 詳細は数値予報課報告・別冊第 64 号第 4.8 節を参照のこと。

4.2.8 視程ガイダンス

視程ガイダンス (格子形式、MSM) ¹¹	
作成対象	5 km 格子 (等緯度経度格子)
作成方法	消散係数による診断法 $\text{視程 VIS} = 3 / (\sigma_p + \sigma_c + \sigma_r + \sigma_s) \text{ [km]}$ $\sigma_p = 0.3 (1 - \text{RH})^{-0.2} \text{ : 浮遊塵の消散係数}$ $\sigma_c = 3.5 \times \text{QC}^{0.9} \text{ : 雲の消散係数}$ $\sigma_r = 0.47 \times \text{RAIN}^{0.5} \text{ : 雨の消散係数}$ $\sigma_s = 6.8 \times \text{SNOW}^{0.7} + 0.07 \times \text{FF} \text{ : 雪の消散係数}$
作成対象とするモデル	MSM
予報対象時間単位	3 時間
予報期間と間隔	FT=3 から FT=39 (00, 12UTC 初期値は 51) まで 3 時間間隔
逐次学習の有無	なし
説明変数	モデル予測値 QC : モデル面第 2~9 層の雲水量の和 [g/kg] RAIN : モデル内の前 1 時間降水量 (雨) の予測 [mm/h] SNOW : モデル内の前 1 時間降水量 (雪、霰、雲氷) の予測 [mm/h] RH : モデル面第 1 層の湿度 [%]。85% を上限。 FF : モデル面第 1 層の風速 [m/s]
目的変数	各格子の前 3 時間の最小視程
層別化処理の対象	なし
備考	・ MSM (ランベルト) とガイダンス (等緯度経度) の座標系の違いにより、南北端で一部欠損値が入る。

¹¹ 詳細は数値予報課報告・別冊第 64 号第 4.9 節を参照のこと。

視程ガイドンス (格子形式、GSM) ¹¹	
作成対象	20 km 格子 (等緯度経度格子)、赤道～65 °N, 100～180 °E
作成方法	消散係数による診断法 視程 VIS = 3 / ($\sigma_p + \sigma_c$) [km] $\sigma_p = 0.162 (1 - RH)^{-0.5}$: 浮遊塵の消散係数 $\sigma_c = 100.0 \times CWC_1^{0.96}$: 雲の消散係数 $\sigma_r = 0.403 \times RAIN^{0.5}$: 雨の消散係数 $\sigma_s = 2.14 \times RAIN^{0.7} + 0.167 \times FF$: 雪の消散係数
作成対象とするモデル	GSM
予報対象時間単位	3 時間
予報期間と間隔	FT=3 から FT=84 まで 3 時間間隔
逐次学習の有無	なし
説明変数	モデル予測値 CWC ₁ : 地表気圧より上層の P 面 1 層の雲水量 [g/kg] RH : 地上面の湿度 [%]。85%を上限。 RAIN : 降水量 (3 時間内の 1 時間降水量の最大) [mm/h] FF : 地上面の風速 [m/s]
目的変数	各格子の前 3 時間の最小視程
層別化処理の対象	なし
備考	・ 降水の雨雪判別は天気ガイドンス (降水種別) に準じている。